

2. 4歳児事例

草場 勇介 東間 萌子

事例4-1 ビー玉転がし

7月4日(木)

幼児の姿	学びの分類・考察
<div data-bbox="155 551 478 786" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="494 546 720 768">段ボールを大型積木で挟んで立てている。その側面に材料を貼ってコースをつくる。</p> <p data-bbox="150 808 759 1753">R児はトイレットペーパーの芯や空き箱でつくった自分のコースで何度もビー玉を転がすが、ゴールまで上手く転がって行かない。R児は「あー、もう」と言いながらビー玉を転がし続けた。するとその側でR児の様子を見ていたS児が、<u>①途中でビー玉が落ちてしまう箇所のトイレットペーパーの芯の角度を調節し始めた。何度か転がしてみるが上手くいかず、S児はビー玉が下に落ちないように箱をつけた。</u>R児はS児が箱をつけ終わるのを待って、またビー玉を転がした。S児が箱をつけたことでビー玉の転がるコースが変わり、そのビー玉は段ボールを支えていた大型積木の上を転がるようになった。それを見た二人は、何かを思いついた様子で、すぐ材料を取りに行き、大型積木の上にコースをつくり始めた。<u>②2人はもってきた材料をつけながら、試しに転がしてみたり、またコースをつけたりと何度も二人で調整しながら、ゴールまで落ちずに進むコースをつくった。2人で「やったー！」と喜び、何度も繰り返し転がして楽しんでいた。</u></p>	<p data-bbox="956 472 1187 508">学びの分類・考察</p> <p data-bbox="782 1003 1356 1081">①繰り返し行う中で、ものの特性や変化に気づく (知的)</p> <p data-bbox="782 1099 1356 1272">S児はR児がビー玉を転がしている様子を見て、その遊びの面白さが分かり、加わってきた。そして、何度も繰り返しながら角度を調整し、勢いや落ち方を試している。</p> <p data-bbox="782 1339 1356 1375">②友達と遊ぶ楽しさを感じる (社会的)</p> <p data-bbox="782 1393 1356 1659">R児は、始めは一人で楽しんでいたが、次第にS児と共に「ビー玉をゴールまで転がしたい」という思いをもち、2人で遊ぶ楽しさを感じながら遊ぶようになった。2人で何度も試しながら、その試すこと自体を楽しんでいる。</p>


幼児の姿	学びの分類・考察
<p>園庭で遊んでいる幼児が、「カマキリがいた！」とツツジの木の上でカマキリを見つけた。K児、R児、N児、A児らがつかまえようと追いかけて始めた。カマキリが飛んで逃げることと、手でつかまえる怖さもあり、中々つかまえられない。K児が「先生、網がいる。網が欲しい」と言うので、教師は「年長組さんに借りてきたら？」と伝えた。すると、K児らは5歳児の部屋に話しに行き、網をもった5歳児のk児を連れてきた。5歳児k児が「俺、捕れるよ」と言い、<u>①K児らの見守る中、カマキリを捕まえた。</u>虫かごが無いことに気づいた5歳児k児は、急いで保育室へ戻ると、ティッシュペーパーの空箱をもってきて、そこにカマキリを入れた。5歳児k児は空き箱をA児に渡すと、網をもって他の場所へ虫をつかまえにいった。</p> <p>A児が空き箱をもってると、カマキリが飛んで逃げて行ってしまった。皆でカマキリを追いかける。カマキリが木の上にとまった所で、<u>②R児が「網もってくる！」と言うと、N児が「僕、ここで(カマキリを)見てる」と答えた。R児らは「わかった！」と、急いで網をもつ5歳児k児の所へ走った。</u></p> <p>R児らは網をもってN児がカマキリを見張っている場所に戻り、飛び回るカマキリを何度も追いかけて、<u>①ようやくカマキリをつかまえて、空き箱に入れた。③幼児は皆で「やったー!」「すごい!つかまえた!」と喜び、空き箱の中のカマキリを嬉しそうに覗いていた。</u></p>	<p>①年上児の虫のつかまえ方を見て、まねをする (知的)</p> <p>5歳児のk児はカマキリをつかまえる時、素早く網を被せるだけではなく、つかまえたカマキリが逃げないように網の口をすぼめ、網の中でカマキリの背中を捕まえていた。R児は5歳児k児の上手なつかまえ方を見ていたことで、上手くつかまえることができた。</p> <p>②周りの状況を見て考え、必要な役割を見つけて行動する (社会的)</p> <p>R児の言葉を聞いて、N児は「網を取りに行っている間にカマキリがどこへ飛んでいくかわからない」と考えた。皆が網を取りに行こうとするのを見て、見張っておく役が必要だと思い、待っていたのだと思われる。</p> <p>③達成感を得、共有する (心的)</p> <p>何度も逃げて飛び回るカマキリを捕まえる為に、必要なもの・ことを見つけ、皆で協力して追いかけて捕まえたことで、達成感を共有することができた。</p>

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>教師がジャングルの紙芝居を読んだことや保育室の壁面をジャングルのイメージで飾ってあったことから、L児はジャングルと洞窟をつくり、洞窟の中にコウモリを飛ばしたいと話す。園庭で遊び始めたL児は、以前から藤棚の下で遊具を並べたりロープを張ったりして遊んでいたことを思い出し、同じ様に遊具などを並べて藤棚の下でジャングルの迷路をつくりたいと考え、教師に伝えに来た。教師が「おもしろそうだね!」と答えると、①それを聞いていたO児、K児が「一緒に作りたい」とL児に話した。L児は嬉しそうに聞いている。そして、藤棚の下へ走って行き、教師も加わって皆でジャングル迷路をつくり始めた。</p> <p>L児が「スタートはここにしない?」と決め、皆でそこから遊具を並べ始めた。ある程度並べた後、「L児ちゃん、次どっちにする?」「じゃあ、あっちにする」と、L児の考えを聞きながら、コースをつくっていた。②次第に、</p> <p><u>O児 「L児ちゃん、これこうやって並べようよ」</u></p> <p><u>L児 「いいね!そうしよう!」</u></p> <p><u>K児 「ねえL児ちゃん、先生にロープ張ってもらわない?」</u></p> <p><u>L児 「そうする!頼んでくる!」</u></p> <p>と、声をかけ合いながらつくり始めた。③重い遊具があると「ちょっと来て!重いし一緒にもって!」と協力しながらコースをつくっていた。その後、教師と共に洞窟もつくることができた。④出来上がると、他の幼児も参加し、皆で何度もコースをまわることを楽しんでいた。</p>	<p>①友達が自分の考えに興味をもってくれたことを喜ぶ (心的)</p> <p>L児は自分の遊びたい思いをしっかりと教師に伝えることができた。それを教師が認めたことで、周りの幼児にL児の考えが伝わり、周りの幼児が興味をもった。L児の表情から、友達に来てくれたことを喜んでいる様子が伺えた。</p> <p>②友達と一緒に作りながら、同じ思いをもって遊ぶ (社会的)</p> <p>O児やK児は、作り始めは困るとL児に尋ねていた。しかし、次第にお互いにアイデアを提案するようになったことから、少しずつ3人は“面白いコースにしよう”という同じ思いをもって遊ぶようになったと考えられる。1学期に同じ様にロープと遊具を組み合わせるコースをつくっていた体験もつながっているだろう。</p> <p>③友達と一緒に遊びの場をつくる (社会的)</p> <p>一人でもつことが難しい遊具を使った遊びであること、一目見てどこが完成していないか分かる遊びであることから、3人は一緒にものを運んだり、声をかけ合ったりしながら遊びの場をつくることができた。</p> <p>④自分の考えていた遊びが実現した喜びを感じる (心的)</p> <p>L児はこれまで「気の合う友達と遊びたい」という思いはあるが、「こうやって遊びたい」という思いを出すことは無かった。L児は思い通りに遊びの場をつくることができた喜びを体で表現しながら、何度も繰り返し楽しんでいった。</p>

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>L児は登園すると、昨日洞窟の中に貼ることのできなかつたコウモリをつくりたいと教師に話しに来た。L児は教師が用意しておいた紙を受け取ると、最初はどうか分らない様子だった。教師が「何かお手本があるといいね」と話すと、L児は①「<u>絵本にあるかも知れない</u>」と<u>思いつき、教師と一緒にコウモリの出てくる絵本を探し、それを見ながらかき始めた</u>。教師は早く遊びに行きたいという思いから、L児を手伝い一緒にコウモリを何匹かつくった。L児はそのコウモリを洞窟に貼りに行き、貼り終わると、ユニオンサークルの上に登り、大きな声で「<u>ジャングル迷路オープンしましたからねー!</u>」と宣伝を始めた。L児やO児は何度も洞窟を通るうちに、「もっと暗くしたい」と教師に伝えに来た。教師が「それ面白そうだね。じゃあどうする?」と聞くと、①②L児は少し悩んだ後、「<u>段ボールを(洞窟の穴があいている部分に)貼って、暗くする!</u>」と話した。同じ場で遊んでいた幼児数人もそれを聞いて「<u>ぼくもしたい!</u>」と話してきた。そこで、皆で段ボールを取りに行き、<u>段ボールカッターで切って、洞窟の穴に貼って暗くした</u>。L児は満足そうに何度も洞窟を遊んでいた。</p>	<p>①自分の思いを実現するための方法を考える (知的)</p> <p>L児は教師の言葉を聞いて、コウモリをつくるにはどうしたらよいか、自分なりに考え、手本となるものを見つけることができた。「コウモリをつくりたい」という自分の思いを実現している。同じ様に洞窟を暗くする際も、洞窟の穴を塞げばよいと考え、それを試している。</p> <p>②自分のアイディアが認められた嬉しさを感じる (心的)</p> <p>L児の「洞窟を暗くするという」アイディアに対し、周りの幼児がそれを楽しそうだと感じて、一緒にしたいと言ってくれたことで、L児は嬉しさを感じている様子であった。</p>

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>昼食後,保育室で遊んでいる時にM児が教師に話かけてきた。</p> <p>①M児 <u>「カマキリでもいい? (カマキリを見ていてもいい?)」</u></p> <p>教師 「いいよ」</p> <p>②M児 <u>「うわあ。カマちゃんもごはん食べているよ」</u></p> <p>とつぶやき,カマキリがコオロギを食べる様子に見入っていた。しばらくすると, M児は製作テーブルにクレヨンと自由画帳を広げ,「僕,カマキリをかこうかな」と緑色のクレヨンを手にしたが,なかなかかき出せずにいる。教師が「カマちゃん見ながらかいてみたら?」と提案した。すると, ③M児はカマキリを観察していたU児らに<u>「カマちゃん, もっていってもいい?」</u>と自ら声をかけた。2人はM児が絵を描こうとしていることを理解し,「いいよ」と答えた。U児は「僕もかこうかな」と言ってM児と2人で虫かごを持ち,製作テーブルに向かった。2人は自分たちの正面に虫かごを置き,真剣な眼差しでカマキリをみつめながら絵をかいた。そこへ, I児が「わたしもかきたいんだけど」と加わり, 3人は横に並んで座った。カマキリは虫かごの蓋の裏側に逆さまになってコオロギを食べている。I児が「あれ,カマちゃんいないじゃないの!」と困っていると, ⑤M児は<u>「蓋のうらにくっついているんだよ。見える?」</u>とI児からもカマキリが見えるように虫かごを傾け,誇らしげに声をかけた。</p>	<p>①自分のしたいことを主張する (心的)</p> <p>これまでM児は場を変えながらしたい遊びを探していたが, 9月中旬に友達が見つけたカマキリを保育室で飼い始めてからは観察することに夢中になり, 1日の中で何度もカマキリに見入っているなど, カマキリを観察したいという思いをもって行動するようになった。</p> <p>②自然物に愛着をもち, 身近に感じる (心的)</p> <p>M児はお気に入りのカマキリが, コオロギを食べている様子を自分の生活と照らし合わせ, 身近に感じている。</p> <p>③友達に自ら思いを伝える (社会的)</p> <p>M児はカマキリを見ていたU児に話しかけ, 自分の思いを伝えている。言葉は拙いが, U児もM児の思いを理解したうえで受け入れ,「いいよ」と認めている。</p> <p>④同じことをして遊ぶ友達の存在を喜ぶ (心的)</p> <p>M児はいままであまりI児とかかわる機会がなかったが, 自分が愛着をもっているカマキリを通して嬉しそうに話しかけている。</p> <p>⑤友達に教える (社会的)</p> <p>I児が少し怒ったように声をあげ, 困っていた様子を見て, M児は優しく声をかけ, 虫かごを傾けた。友達の困っている状況を見て, 自分の知っている知識を伝えて解決しようとしている。</p>

10月18日から「なかよしウィーク」として、3、4、5歳児の縦割りグループで、角間の里山に遠足に出かけたり、里山で見つけた自然をモチーフにした製作をしたりしてきた。28日には各グループがつくった製作物を見てまわった。

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>3年保育児であるY児、O児、T児がスコップをもって赤土を掘り、そこに水を入れている。3人はジャブジャブと水の中に入りながら、水の底を掘ったり、何度も往復したりしている。</p> <p>①②教師 「何つくってるの?」 <u>3人 「里山!」</u> 教師 「里山をつくってるの?」 <u>3人 「違う、里山の川!」</u> <u>Y児 「ここ入ってみて!ヌルヌルするよ」</u> <u>O児 「こっちはもっと深くするんだよ!」</u> <u>T児 「早く深くしよう!」</u> <u>Y児 「うん!早くしよう!」</u> 3人は声をかけ合いながら遊びを進めている。</p> <p>③O児 「T児くん、水汲んで来て!」 <u>T児 「えー、僕さっき行ったもん」</u> <u>Y児 「じゃあ私行って来るね!」</u> <u>O児 「次、私ね」</u></p> <p>①T児 「ねえ、ここにお皿の船が浮かびます」 <u>O児 「いいね!私もっとここを深くするね」</u> <u>T児はままごとで使っている皿を川に浮かべて船を行き来させている。Y児は川全体を掘っている。O児は川の端をどんどん深くしている。3人は近くに集まる友達に、「入ってみる?」と声をかけて誘いながら、遊びを続けていた。</u></p> 	<p>①友達と共通の思いをもって遊ぶ楽しさを味わう (社会的) 教師が尋ねると3人は自分達の遊びについて説明している。川の中での遊び方はそれぞれ違うが、お互いに声をかけ合いながら遊び、「里山にあった川をつくろう」「川を使って遊ぼう」という思いは共通のものとなっている。</p> <p>②赤土の感触を楽しむ (身体的) 川を手で掘ったり何度も往復したりしながら、水と赤土の混ざった感触を楽しんでいる。</p> <p>③友達と一緒に楽しく遊ぶための方法を考える (社会的) 水道は赤土の場所からは少し離れた所にある。そのため幼児はそこまで水を汲みに行かなくてはならない。今まで水を汲んだ経験もあって、「続けて水を汲みに行く」ということが大変であることを知っていた。そこで、楽しく遊ぶ為に順番に汲みに行くことが良いと考えた。</p>

幼児の姿	学びの分類・考察
<p>数日前から、数名が集まり各々のなりたい動物に扮し、それぞれの動物が入る檻をつくり、動物園ごっこをして遊んでいる。C児が、昨日一緒に動物園ごっこをしていた友達を「今日動物園ごっこしよう」と誘った。しかし、断られてしまった。C児が教師を誘ってきたので、2人でプレイルームに行った。教師がC児に「どうする?」と尋ねると、<u>①C児は少し考えた後、「じゃあ、誰か呼んでくる」と保育室へ向かい、しばらくしてN児と一緒に戻ってきた。</u></p> <p><u>②C児 「N児くんはやりたいて言うんだけど、もう(やりたい人が)いなかった」</u> <u>教師 「いつもより人が少ないね。どうする?」</u> <u>N児 「僕、チーターしたい」</u> <u>C児 「じゃあ、チーターの住む場所つくろう!」</u> <u>N児 「いいね!」</u></p> <p><u>③2人は早速取りかかろうとした。しかし、いつも動物の檻をつくる時に使っていたマルチパネは友達が全て使ってしまった。</u></p> <p><u>N児 「先生、マルチパネもうない」</u> <u>教師 「本当だね。どうしようか」</u> <u>C児 「ええっと……」</u></p> <p><u>C児は何とかしたいといった様子で、プレイルームの中の遊具を色々を見て考えている。3人で考えるが、なかなか思いつかない。しばらく悩んでいたが、</u> <u>C児 「あ、大型積木でつくったらいいんじゃない?」</u> <u>N児 「え、できるかな?」</u> <u>C児 「やってみる?」</u></p> <p><u>C児は少し不安な様子で大型積木で作り始めた。④最初はどのように大型積木を使ったらよいか分からない様子でただ並べていた。作り始めるとC児はイメージが湧いてきたようで、「チーターはジャングルに住んでるから、ポコポコの場所にしない?」と教師とN児に伝えた、3人は思い思いに凹凸をつくり、チーターの住処ができあがった。作り終ると、3人でチーターになりきって遊びを楽しんだ。</u></p>	<p>①自分の思いを実現させるための方法を考える (知的) C児は前日までに遊んでいた動物園ごっこをしたいと思い、友達を呼びに行き「動物に変身して遊びたい」という思いを自分なりに実現しようとしている。</p> <p>②友達と呼応しながら遊びを進める (社会的) C児はN児の言葉に反応して、自分のしたい遊びとN児の思いを合わせた新しい遊び方を提案した。それにN児が応えた。この様にお互いに呼応しながら遊びを進めている。</p> <p>③友達と一緒にしたい遊びをするために考える (社会的) 今まで使っていた遊具が無いという新たな課題に対し、何とか遊びをつくらうと友達と一緒に考えている。</p> <p>④物を操作しながら考える(知的) C児は大型積木が使えるそうだとは思ったが、どうつくるかまでは考えが及んでいなかったようである。しかし、物を操作しながら考え、遊びを広げている。</p>